

作物栽培管理情報

令和8年6月号

大分県中部振興局 生産流通部 地域営農・水田活用班

水稲の初期除草剤を効かせるポイント

移植水稲の初期除草剤は、散布した後に水中に広がった有効成分が土壌表面に「除草剤処理層」を形成することで効果を発揮します。また、形成された処理層が壊れにくいように注意して水管理を行うことで除草効果が安定します。

① 漏水防止対策！

→畦塗りや穴をふさぐ等対策を行ってください。

② ほ場を均平にする！

→代かきを丁寧にしっかり行いましょう。

ドライブハロー等をうまく活用し、土壌表面を均平にするとともに、水深を一定に保つことで除草剤処理層が安定し、効果が高くなります。高い田面に処理層が出来ず、雑草が発生するため注意してください。

③ 除草剤処理後3～5日間は湛水深3～5cmに！

(ジャンボ剤は5～6cm)

→水の出入りを止め湛水状態で均一に散布してください。

④ 散布後7日間は水を動かさない！

→散布後は湛水状態をしっかり保ち、**散布後7日間は落水しない。**

この間水深が浅くなり土壌表面が露出しそうな場合は、水口から静かに入水し、処理層がなるべく壊れないようにします。

⑤ 天気予報をみて散布しましょう！

→処理直後に大雨が降り、田面水があふれると効果不足になる恐れがあります。

◎ 除草剤の使用時期の目安

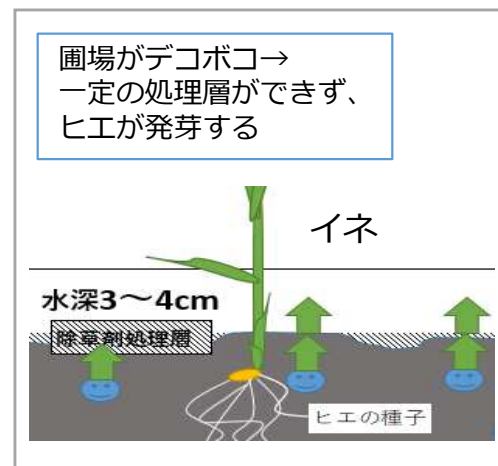
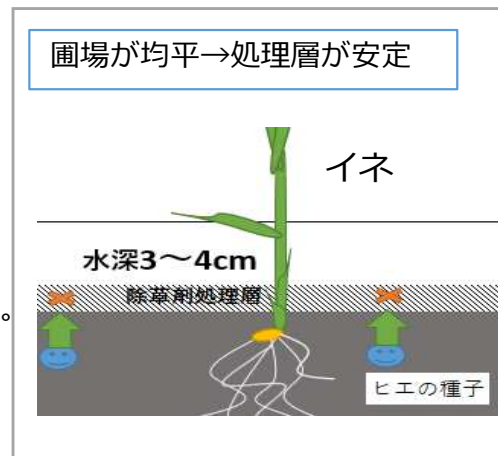
★水田内で最も生育の進んだノビエの葉齢を目安としてください。

※使用前はラベルをよく読み、使用時期、使用方法を守って散布しましょう。

◎ 田植え同時処理の注意点

★田植え同時処理では移植深度が浅いと薬害が発生しやすいため、植付深度2～3cmを確保し、浅植えや浮き苗を防止しましょう。

★除草効果を安定させるため、水尻を確実に止め、田植え後は5cm程度まで速やかに入水しましょう。また、薬剤の流出を防ぐためオーバーフローや落水・かけ流しを避けてください。



注意



☆以下の稲品種には、特定の除草剤が使いません！

「みなちから」「とよめき」「タカナリ」「モミロマン」「やまだわら」「オオナリ」「ミズホチカラ」「笑みたわわ」等 特定の除草剤成分（ベンゾピシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン）で薬害が起き、苗が白化して枯死する場合があります。上記の品種の除草に、これらの成分を含む除草剤を使用しないよう、ご注意ください。

←農研機構のHPで詳細をご確認ください

農作業に伴う道路の泥汚れ防止をお願いします

農地から道路に出る際は、泥や土を落としてから走行していただくようお願いします。

裏面へ

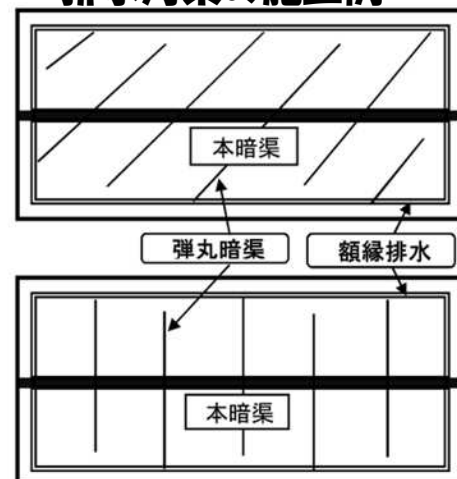
大豆の栽培管理 播種前の準備～播種時の注意点

◎排水対策のポイント

【畦立・額縁明渠・弾丸暗渠】

大豆は出芽期から生育初期にかけて湿害に非常に弱いです。排水が悪いと雨間に播種ができず、作業スケジュールに影響が出るだけでなく、梅雨期の降水量の増加は単収の減少に繋がります。明渠がつながっているか、水が圃場外に流れているか確認を行いましょ。

排水対策の施工例



弾丸暗渠は額縁の排水溝につないでください。

◎適切な土作り

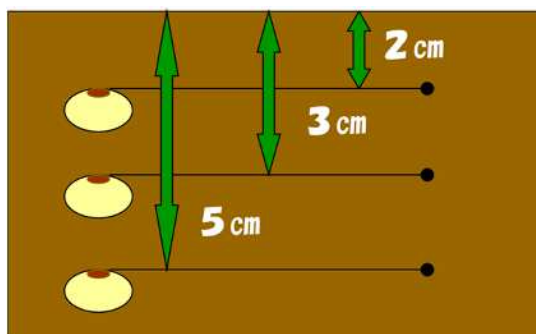
大豆の最適なpHは、pH6.0～6.5程度です。土壌の酸性化は単収低下の原因になります。土壌診断により圃場のpHを確認し、石灰質資材でpHを調整しましょう。

◎播種時期について

中部管内の播種適期は7月1日～20日までの間です。7月1日からの播種に間に合うように圃場の準備、播種前の準備を徹底しましょう。播種時期が遅れると収量が減少します。播種時期が遅れている場合、作業スケジュールの見直しが重要となります。天候を見ながら7月20日までの間に播種ができるように準備をお願いします。

◎播種深度について

下の図を参考に土壌水分量に合わせて播種を行いましょ。基本は3cmの播種深度で行い、土壌が湿っている場合は少し浅めに、乾燥気味の際は深めに播種しましょ。



← 水分が高いときは2cm
→ 深いと種子がくさる……

← 基本は3cm！

← 土壌が乾燥気味のときは5cm

7月からすぐ播種ができるよう準備をしましょ

農業情報メール配信の登録募集！

～米・麦・大豆の栽培管理情報をいち早くキャッチしよう！～

★ 登録方法 ★

配信受付（スマート申請システム）

<https://ttzk.graffer.jp/pref-oita/smart-apply/surveys-alias/nougyouzyouhou>

上記のアドレスまたはQRコードからアクセスし、メールアドレス等の必要事項を入力してください。後日、農業情報をメール配信します。

